

畜産みやぎ

発行所

仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号

宮城県畜産協会

電話 022-298-8473

編集発行人

大堀 哲

印刷所

(株)東北プリント



牛乳・乳製品フェア (仙台市勾当台公園 写真提供 宮城県牛乳普及協会)

もくじ

CONTENTS

高病原性鳥インフルエンザ

情報連絡会議の概要について 2

県政広報展示室の企画展

～健康で美しい「みやぎのたい肥」～ 3

「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の

促進に関する法律」の執行について 3

平成16年度生乳需給状況について 4

牛乳・乳製品フェア開催報告 5

東京食肉市場まつり 5

～酪農家・和牛繁殖農家の皆様へ～ 6

本県に於ける黒毛和種雄牛の造成と

今後の活用について 7

New Face 8

第44回仙台牛枝肉共進会終了報告 8

<畜試便り>

基幹種雄牛「茂糸桜」号 9

<衛生便り>

「24か月齢以上の死亡牛の牛海綿状脳症

(BSE) の全頭検査 (採取) について」 10

実践大学校生の抱負 10

みやぎの
畜産情報
発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.go.jp>Eメール mygchiku@mwnet.or.jp

高病原性鳥インフルエンザ情報連絡会議の概要について

宮城県産業経済部 畜産課

平成16年11月1日、宮城県庁2階講堂において、市町村及び県関係職員144名による合同の高病原性鳥インフルエンザ情報連絡会議を開催し、本病が本県で発生した場合の対応について再確認をしましたのでその概要をお知らせします。

協議事項

(1) 山口県、京都府の発生事例報告

畜産課で入手した資料に基づき、両府県の発生事例をスライドで紹介し、発生時の対応の困難さを確認しました。特に山口県では対応従事者が約2,000名、京都府では自衛隊、ボランティアまでもが協力し、約14,000名を動員して防疫対策を行っていました。

(2) 宮城県高病原性鳥インフルエンザ防疫マニュアルの概要

マニュアルは、県内における高病原性鳥インフルエンザ発生時におけるまん延防止等の対応策を迅速かつ適切に実施するための対応措置について記載しており、以下の事項で構成されています。

1) 異常家きんの連絡から確定診断まで

本病を疑う異常を示した家きんの届出から、病性鑑定、確定診断による発生確認とこれに伴う知事を本部長とする対策本部の設置に至るまでの対応。

2) 発生農場等の防疫措置

発生農場の交通を制限し、消毒、家きんの殺処分、家きんや汚染物品の埋却の実施。これらの作業が終了すると発生農場に係る防疫措置が完了となる。

発生地から原則半径10kmの地域を移動制限地域として、汚染となる物や人の出入りを制限し、さらに関係車両の消毒を実施するため、消毒ポイントを設置する。移動制限の期間は、最終発生に係る防疫措置完了後21日以上となる。

3) 清浄性確認・その他

発生に係る防疫措置終了後、移動制限区域内の家きんの清浄性確認検査を2回実施する。清浄性が確認された場合は、農林水産省と協議し移動制限を解除し、本病の終息を宣言する。終息宣言後も原則3ヶ月間移動制限区域内の監視を強化する。

その他として、県民の不安解消、風評被害対策に努める。

(3) 「家畜疾病経営維持資金」制度の概要

高病原性鳥インフルエンザの発生に伴い、経営に影響を受けた生産者に運転資金を融通する制度です。

(4) 高病原性鳥インフルエンザ対策本部の各課の対応

発生時の各課の対応は以下のとおりとしました。

担 当 課	対 応 内 容
産業経済総務課	対策本部総括担当
畜産課	マニュアルに基づく防疫対策全般
危機対策課	自衛隊との連絡窓口
広報課	報道機関との調整
食産業・商業振興課	県内産の鶏肉、卵等に関する風評防止
食と暮らしの安全推進課	食鳥処理場の対応、鶏肉関係の流通対応
教育庁	公立学校関係
私学文書課	私立学校関係
健康対策課、薬務課	医薬品の確保や防疫従事者の健康関係
経営金融課	農業関係中小企業関係の金融支援
廃棄物対策課	停滞卵等の処理関係
自然保護課	野鳥関係

(5) 発生時の市町村の対応

発生地の市町村の対応は、①発生現地への防疫活動への参加 ②埋却地選定に係る地元協議 ③市町村民への情報提供 ④小規模飼養農家（庭先養鶏）の把握と巡回指導 ⑤野鳥への対応（相談窓口、死亡野鳥回収、県機関への検査依頼）となります。

(6) 家畜防疫対策研修会の概要

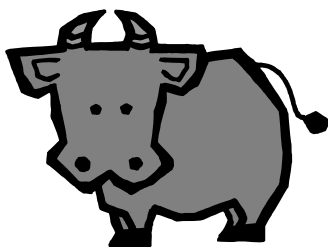
平成16年10月20日に大河原家保管内で実施した高病原性鳥インフルエンザ防疫演習の概要を紹介しました。

(7) まとめ

本病の適切な防疫には国、県、市町村、農場の密接な連携が必要となります。防疫措置が遅れば、防圧が困難となり、社会問題にまで発展しますので、早期通報と迅速な診断だけが被害の軽減化や食品の安全確保につながります。

今後も引き続き日本を取り巻くアジア諸国から本病の侵入に対する警戒を強化し、適切なモニタリングの実施等による本病の早期発見に加え、養鶏場における異常鶏発生監視体制の維持を行って参りますが、愛玩鶏を含めた小羽数飼養者の把握等、市町村の協力も重要となりますので今後ともよろしくお願いします。

(改良衛生班 日野 正浩)



県政広報展示室の企画展 ― 健康で美しい「みやぎのたい肥」 ―

宮城県産業経済部 畜産課

「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」(以下、家畜排せつ物法)に沿って、県内の家畜排せつ物は適切な方法でたい肥化されることとなりました。もとより、生産されたたい肥は、農作物栽培の肥料や土壌改良材として利用されることが法の趣旨であり、県内農産物の質・量の向上へつながれば喜ばしいことです。

そこで、平成16年11月1日から11月26日までの期間、県庁18階の県政広報展示室において、県内のたい肥生産状況の紹介及びたい肥センター等のたい肥の展示を開催致しました。

会期中は多くの県民が訪れ、たい肥に関する理解が進められたものと思われます。

1 テーマ

健康で美しい「みやぎのたい肥」～宮城県たい肥見本市～

微生物が 元気にはたらいて出来た 健康な たい肥です。

わるい菌や汚れたものがなくなって きれいになっています。

(テーマは「見る人にたい肥のイメージを変えて欲しい」……………
思いで命名)

2 展示内容

製品たい肥 (県内のたい肥センター製品現物とペレットたい肥)

包装袋、県内たい肥センター紹介写真、パンフレット、たい肥を利用した農産物の写真

(草地飼料班 高瀬 修)



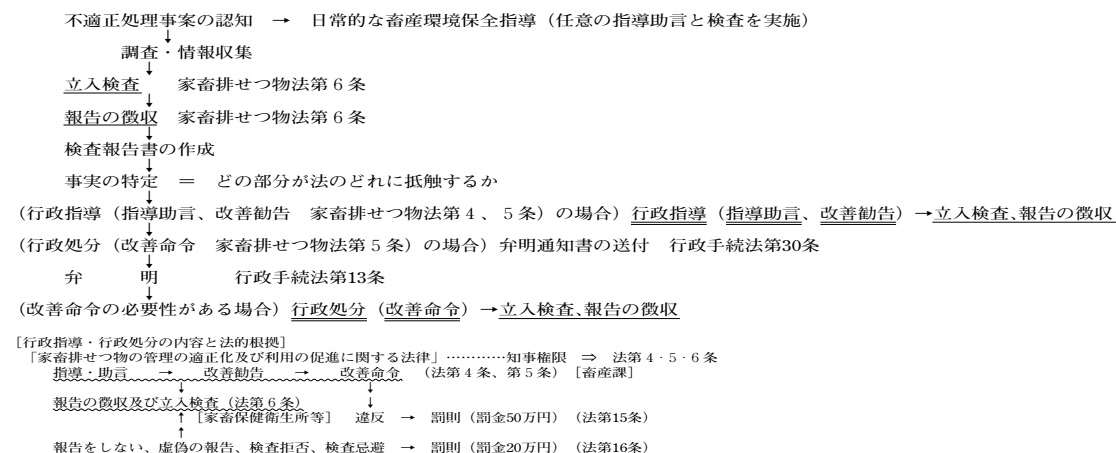
「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」 (平成11年7月28日法律第112号)の執行について

- (1) 家畜排せつ物法には、管理基準に従った家畜排せつ物の管理が行われるよう、指導及び助言、勧告及び命令ができると定められています。(法第4条、第5条)
- (2) 宮城県では、法4条の趣旨に従い「強い措置の前に、畜産業を営む者の自発的な管理の改善を促す」* ことを旨として、環境に配慮した畜産業の発展を進めます。(→日常的な畜産環境保全指導及び下記①)
- (3) ただし、自発的な改善が期待できず環境への影響が予想される状況が生じた場合は、同法が家畜排せつ物を適正な管理へ導き得る関連性が強いことから、県は法に定めのある実行力を持った措置をとることもあります。(→下記②)

*逐条解説＝「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律の解説(平成12年3月地球社)」

- ① 家畜排せつ物法は、管理基準に従った家畜排せつ物の管理が行われるよう、指導及び助言、勧告及び命令ができると定めている。(法第4条、第5条)
- ② 違反、検査拒否等の場合は罰則も規定されている。(法第15条、第16条)

具体的な行政指導・行政処分の手順



(草地飼料班 高橋 修)

平成16年度生乳需給状況について

東北生乳販連宮城支所
みやぎの酪農農業協同組合

全国の上半期総受託乳量は、4,053,608^ト（前年比99.5%）と0.5ポイント前年を下回り、各月別にみると、5月・6月が2ヶ月連続で前年を上回った以外は、前年水準を下回っています。また、地区別にみると北海道の上半期総受託乳量は、1,905,678^ト（前年比99.8%）と16年度に入り、これまでの増加基調の反動もあり3年ぶりに前年割れとなったが、5・6月は堅調に推移し、7月以降は猛暑の影響もあり前年を下回りました。一方、都府県の上半期総受託乳量は、2,147,929^ト（前年比99.3%）となり、6月は昨年冷夏における受胎率の向上等により、23ヶ月ぶりに前年を上回ったが、それ以外は前年を下回っています。今年の夏場は昨年から一転して猛暑となり、個体乳量も前年並みに収束したことも影響し、前年割れとなっていますが冷夏により生乳生産がある程度維持された昨年と比較しても大きな落ち込みにはなっていません（表－Ⅰ）。

表－Ⅰ 平成16年度全国総受託乳量

(単位：^ト、%)

団体名	月	7月	前年比	8月	前年比	9月	前年比	合計	前年比
北海道		326,983	99.4	319,151	98.6	305,558	98.6	1,905,678	99.8
都府県		353,783	98.5	344,929	99.4	330,792	99.3	2,147,929	99.3
全国		680,766	98.9	664,079	99.0	636,349	99.0	4,053,680	99.5

つぎに、東北の上半期総受託乳量は、366,459^ト（前年比98.3%）と1.7ポイント前年を下回り、月別の推移をみても4～9月まですべての月が前年水準を下回っています。各県別にみると、8・9月は暑さの影響もあり6県すべてが前年割れとなり、4～9月までの累計では青森県が0.1ポイント前年を僅かに上回っています。

一方、東北の用途別をみると上半期の飲用向けは、280,976^ト（前年比96.9%）と昨年の冷夏だったにも係わらず3.1ポイント前年を下回り、加工向けは41,228^ト（前年比105.7%）と飲用向けが伸び悩んだ分、5.7ポイント前年を上回る結果となりました。今年の夏は昨年から一転して猛暑で、茶系飲料の消費は伸びたものの、飲用牛乳等は期待されたほどの伸びを見せませんでした。また、8月中旬以降、台風が連続して上陸し天候が悪かったことも影響した模様です（表－Ⅱ、Ⅲ）。

表－Ⅱ 平成16年度県別生乳受託販売実績

(単位：kg、%)

県	月	第1四半期	前年比	7月	前年比	8月	前年比	9月	前年比	第2四半期	前年比	合計	前年比
青森		20,935,374.0	100.6	7,131,081.0	101.2	6,758,905.0	98.1	6,602,557.0	99.6	20,492,543.0	99.6	41,427,917.0	100.1
岩手		62,578,178.0	96.8	20,941,979.0	97.7	20,232,521.0	96.3	19,842,331.0	98.4	61,016,831.0	97.5	123,595,009.0	97.1
宮城		39,842,722.0	98.1	13,048,081.0	98.8	12,755,397.0	98.9	12,274,818.0	98.1	38,078,296.0	98.6	77,921,018.0	98.4
秋田		9,319,019.0	101.7	3,029,814.0	98.8	2,922,347.0	97.4	2,860,858.2	97.7	8,813,019.2	98.0	18,132,038.2	99.8
山形		24,669,812.0	99.3	8,116,716.4	99.1	7,977,328.6	99.2	7,601,238.0	98.7	23,695,283.0	99.0	48,365,095.0	99.2
福島		29,322,348.0	98.2	9,503,819.0	98.1	9,316,494.0	99.3	8,875,717.0	98.6	27,696,030.0	98.7	57,018,378.0	98.4
計		186,667,453.0	98.3	61,771,490.4	98.6	59,962,992.6	98.0	58,057,519.2	98.5	179,792,002.2	98.4	366,459,455.2	98.3

表－Ⅲ 平成16年度東北用途別販売実績

(単位：kg、%)

県	月	第1四半期	前年比	7月	前年比	8月	前年比	9月	前年比	第2四半期	前年比	合計	前年比
総受託販売乳量		186,667,453.0	98.3	61,771,490.4	98.6	59,962,992.6	98.0	58,057,519.2	98.5	179,792,002.2	98.4	366,459,455.2	98.3
飲用等向け	飲用牛乳向け	140,839,418.6	95.7	48,284,282.8	101.0	45,417,608.6	99.2	46,435,681.2	94.5	140,137,572.6	98.2	280,976,991.2	96.9
	（うち学乳向け）	9,912,179.7	95.3	2,479,323.8	96.2	1,009,749.6	109.0	3,492,179.9	101.2	6,981,253.3	100.4	16,893,433.0	97.3
	はっ酵乳等向け	14,429,928.4	100.0	4,965,153.6	102.2	5,046,322.0	112.1	4,727,886.0	101.8	14,739,361.6	105.3	29,169,290.0	102.6
乳製品向け	特定乳製品向け	23,889,922.0	115.8	5,840,380.0	79.0	7,052,770.0	83.7	4,445,297.0	174.2	17,338,447.0	94.4	41,228,369.0	105.7
	（うち委託加工向け）	0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	
	生クリーム等向け	6,092,997.0	91.2	2,256,943.0	100.5	1,966,105.0	91.0	2,000,537.0	90.8	6,223,585.0	94.2	12,316,582.0	92.7
チーズ向け		1,394,257.0	136.4	417,601.0	132.5	473,057.0	135.0	441,218.0	106.7	1,331,876.0	123.4	2,726,133.0	129.7
全乳哺育向け		20,930.0	105.7	7,130.0	121.9	7,130.0	121.1	6,900.0	112.4	21,160.0	118.3	42,090.0	111.7

平成16年度の本県に於ける生乳計画生産目標数量は、153,628^ト（前年目標比96.6%）に決定しました。上半期の生乳計画生産達成状況は、77,921^ト（前年比98.4%）となり目標数量に対し891^トの超過となっていますが、月別の推移を見ると16年1月以降、9ヶ月連続で前年水準を下回っており依然として生産の停滞基調にあります（表－Ⅳ）。

表－Ⅳ 平成16年度組合別受託実績

(標準進捗率50.14%)

(単位：kg、%)

組合名	項目	受託乳量	前年比	進捗率	未達・超過	目標数量
みやぎの酪農		42,669,428	98.3	50.6	426,378	84,250,000
全農宮城		13,492,574	97.8	50.3	43,522	26,823,000
宮城酪農		21,759,116	98.9	51.1	422,039	42,555,000
宮城県計		77,921,118	98.4	50.7	891,939	153,628,000

今後、下期に向け需要緩和基調が昨年以上に強くなることが予想されますが、本年度の目標数量の達成と、多様化する消費者ニーズや高乳価確保のため「安全・安心」に向けた生産者各位のより一層のご努力を賜りますようお願いいたします。

(販売課長代理 菅原 久義)

『仙台牛』 2004 東京食肉市場まつり

仙台牛銘柄推進協議会

東京食肉市場における「都民の日」の行事として、今年で23回目を迎えた“食肉市場まつり”が10月16日(土)～17日(日)に東京都中央卸売市場食肉市場、J R品川駅港南口、品川インターシティの3会場において開催されました。年を重ねるごとに都民をはじめ関係業者、多数の小売店、生産者等に大きな期待をもって迎えられ、本年は推奨銘柄牛として『仙台牛』が選定されたことを受けて、宮城県をはじめとして関係各位のご協力のもとに、『みやぎ米』をはじめとする数多くの展示即売をおこない、『食材王国みやぎ』としての豊富な自然に恵まれた特産物を多くの都民の方にご利用いただきました。2日間の本会場(食肉市場)来場者数は2万人を超え、他の2会場も例年にない多数の来場者があり、品川インターシティ関係者からも大変感謝をされました。

『仙台北がりねぎ等の県産野菜』、『J Aみやぎ仙南



蔵王漬物センターの漬物』には1日中、長い行列ができ、笹かまぼこ、牛たん、仙台駄菓子等にも多くの人だかりができました。『みやぎ米』を使用したポン菓子の実演には多くの子供たちが興味を示して並ばれました。

仙台七夕を各所に飾りつけ、郷土芸能として「すずめ踊り」を紹介し、こけしの絵付け実演等おこない、多くの都民の方々から『仙台に来ているようだ』『ふるさとが東北で懐かしい』等のご感想をいただき、大変満足をしていただけたと思っています。

港南口には江戸の昔に伊達藩から東京にお米を運んだ『若宮丸』を展示し、大自然の中で米、野菜、畜産と循環型農業を目指していることを大いにPRしました。

しゃぶしゃぶの無料試食をはじめ、市場内で販売されている牛肉もすべて『仙台牛・仙台黒毛和牛』となり、東京食肉市場全体がこの2日間に渡って仙台牛・仙台黒毛和牛に染まりました。

仙台牛銘柄推進協議会が昭和53年に設立以来、首都圏における最大のイベントとして位置付けし、宮城県、J A全農みやぎ、宮城米マーケティング推進機構、宮城県園芸作物ブランド化推進協議会並びに関係各位のご支援、ご協力のもとに盛会裏に終了できましたことに深く感謝を申し上げます。

今後とも本協議会銘柄普及活動にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(事務局長 大友 良彦)

牛乳・乳製品フェア開催報告

宮城県牛乳普及協会

10月30・31日勾当台公園に於いて、牛乳・乳製品フェアが開催されました。あいにくの天候にもかかわらず会場には多くの方々が訪れ、賑わいをみせておりました。今年は猛暑であったにもかかわらず、牛乳の消費量が伸び悩み、いかに牛乳・乳製品をもっと多くの消費者の方々に利用していただくかという問題をふまえて、各コーナーに工夫をこらしました。

ミルクィ大鍋試食会やミルクィクッキング料理講習会では、牛乳・乳製品をふんだんに利用し食材の素材を生かすことによって牛乳が苦手な子供達にも、美味しく試食する事ができ栄養満点で大変好評でした。

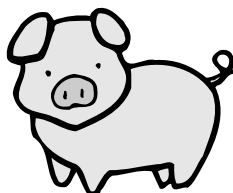
ミルクィカフェでは、牛乳とイチゴ・メロン・抹茶等をシェイクして、飲用して頂くカフェコーナーを開きました。味の美味しさもさることながら、今年初めての企画でチャリティ募金を行い、集まった募金は宮城県立こども病院に寄付させていただきました。

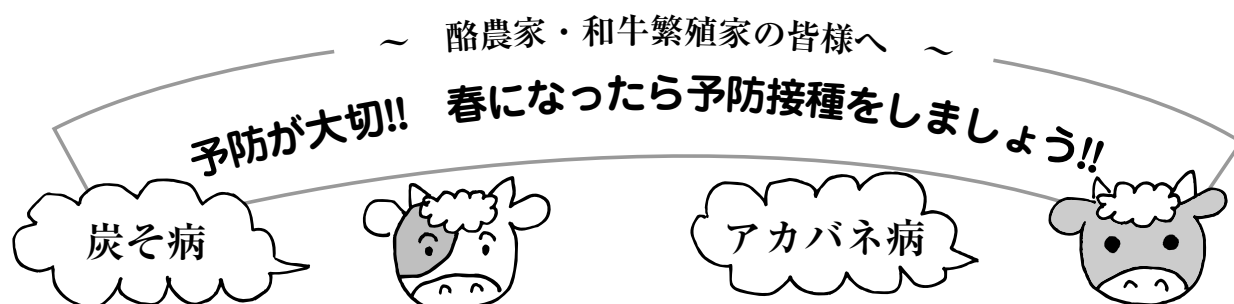
なるほどミルクのショートショーでは生産者・乳業メーカーの方をパネリストに迎え、新鮮な牛乳の生産される過程を簡潔に説明して頂き、また牛乳・乳製品の良さ、すばらしさを訴求していただきました。

31日のミルクィトークショーでは細川ふみえさんを迎え「美容・健康」の観点から牛乳・乳製品の重要性をテーマにお話いただきました。その他、ホテル仙台プラザの料理長による牛乳・乳製品を使用したミルククッキングでは、一流ホテルの味を一般の家庭でも楽しめる簡単料理を実演して頂き試食でも大勢の方が列をなしていました。

各メーカーによる乳製品の販売等、盛りだくさんのイベントも行われ、低迷する飲用牛乳の消費拡大を図り、牛乳・乳製品に対する知識普及も十分になされた有意義な2日間でした。

(村山ひろみ)





社団法人 宮城県畜産協会

炭疽病とは

炭そ病は細菌（炭そ菌）がもたらす人畜共通感染症です。搾乳牛に発生すると牛乳が炭そ菌で汚染されることもあり、簡単な加熱では死滅しないため、飲用ができなくなります。このため発症前の牛乳、それが混入された合乳の廃棄処分、同居牛の牛乳の出荷停止など経営を揺るがしかねない莫大な被害をもたらします。

原因と症状

炭そ菌は通常土壌に存在する細菌で経口感染により発病します。発病した場合、突然発熱し（41～42℃）発症後の経過は急性で1～3日で死亡します。天然口（鼻、口、肛門）から凝固不全の暗赤色タール様出血がみられます。

予防接種について

炭そ病は年一回の予防接種を行うことで防ぐことができますので以下の要領で市町村及び酪農団体に平成17年2月下旬まで申し込んで下さい。

対象家畜：生後3ヶ月以上の乳牛および同居牛

接種時期：平成17年4月～6月上旬

注射料金：1頭 410円

アカバネ病とは**<原因>**

夏季～晩秋にかけての時期に吸血昆虫（ウシヌカカ、コガタアカイエカ等）により、アカバネウイルスを伝播します。

<症状>

妊娠牛（母牛）が感染してもほとんど無症状であるがウイルスが胎盤を介して胎児に感染すると流産、死産、奇形子牛の分娩等の異常産をおこします。この為、繁殖農家等は経済的に甚大な被害をもたらします。

予防接種について

来年の6月～11月の間に妊娠中である牛は、ヌカカ等が出現し始める前の4～6月に予防接種をすることにより効果がありますので、市町村及び農協あてに平成17年2月下旬まで申し込んで下さい。

接種時期：平成17年4月～6月

注射料金：1頭 2,060円

★問い合わせ先★

家畜衛生課

TEL：022（298）8472

FAX：022（293）2311

本県に於ける黒毛和種雄牛の造成と今後の活用について

社団法人 宮城県畜産協会

現在、宮城県には、約3万頭の黒毛和種繁殖牛と、約5万頭の肥育牛が飼養されており、年間約2万頭の子牛と約4万頭の肥育牛が出荷されております。また、肉用牛の粗生産額はおよそ170億円と、県内畜産粗生産額の約3割を占めており、県内畜産業の主要な部門を担っております。

その中であって、本県の和牛改良は県内各和牛改良組合を中心に、昭和50年代前半より産学官一体となり、本県独自の肉用牛の改良に取り組み、種雄牛作出は、全国的にも脚光を浴びており、現在に至っております。

しかしながら、昨今の状況を見ますと、特に県有種雄牛の精液の供給が著しく減少しております。その要因としては、いくつか考えられるとは思いますが、ご存知のとおり、本県種雄牛の造成は多額の費用を投入するとともに、各改良組合を中心とした生産者自らの創意と協力により、造成されております。

そこでそれら作出された種雄牛を本県の和牛改良に最大限活用していくことが重要な課題であります。そのためには、特に和牛改良組合が中心となり、再度原点に戻り、基礎雌牛の見直しと、本県産種雄牛の活用が望まれます。併せて飼養管理技術の更なる向上を期するものであります。

以下、本県において、特に今後活躍の期待される種雄牛について紹介いたします。

(家畜改良課)

繁 奥



■登録番号：黒原3343 (83.3)
■生年月日：平成8年4月4日
■産地：宮城県桃生郡桃生町
■繁殖者：伊藤 幸
■改良期待点：資質、中軀
■交配注意点：肘後
検定成績
直接検定 1.29kg
1日増体量 枝肉重量 ロース芯面積 脂肪交雑
間接検定 0.88kg 316kg 48cm² 3.1
育種価 C A A

奥北茂



■登録番号：黒原3608 (83.3)
■生年月日：平成8年8月14日
■産地：宮城県登米郡米山町
■繁殖者：須藤 清
■改良期待点：発育、資質、尻
■交配注意点：体深、腿
検定成績
直接検定 1.20kg
1日増体量 枝肉重量 ロース芯面積 脂肪交雑
間接検定 0.88kg 323kg 44cm² 3.3
育種価 (期待) C A A

糸 昭



■登録番号：黒原3609 (84.8)
■生年月日：平成9年1月27日
■産地：宮城県桃生郡桃生町
■繁殖者：及川 昭
■改良期待点：発育、前軀
■交配注意点：尻、やや体上線
検定成績
直接検定 1.45kg
1日増体量 枝肉重量 ロース芯面積 脂肪交雑
間接検定 0.96kg 347kg 45cm² 2.5
育種価 (期待) B A A

神勝福

■登録番号：黒原3806 (83.6)
■産地：宮城県遠田郡南郷町
■繁殖者：只野 善久
■生年月日：平成9年9月11日
■改良期待点：資質、体積
■交配注意点：肢蹄

直接検定	1.44kg				
	枝肉重量	1日増体重	ロース芯面積	脂肪交雑	
間接検定	352kg	0.96kg	52cm ²	2.6	

勝 緑

■登録番号：黒原3807 (83.0)
■産地：宮城県登米郡米山町
■繁殖者：佐々木成子
■生年月日：平成9年10月18日
■改良期待点：資質、体積、腿
■交配注意点：体伸、肩後

直接検定	1.21kg				
	枝肉重量	1日増体重	ロース芯面積	脂肪交雑	
間接検定	326kg	0.94kg	46cm ²	3.1	

安敏波 (「安平波」から改名)

■登録番号：黒13443 (82.2)
■産地：宮城県登米郡南方町
■繁殖者：遠藤 敏
■生年月日：平成12年10月13日
■改良期待点：資質、体深、体伸
■交配注意点：体上線、やや肩後

直接検定 1.50kg

糸安平

■登録番号：黒13442 (82.0)
■産地：宮城県登米郡石越町
■繁殖者：佐藤 勝博
■生年月日：平成12年11月2日
■改良期待点：体上線、体伸、尻
■交配注意点：体下線、下腿

直接検定 1.60kg

< New face >

宮城県大河原地域農業改良普及センター

先進技術第1班 技師 齊藤 陽介



はじめまして。平成16年4月より宮城県大河原地域農業改良普及センターに勤務しております齊藤陽介と申します。私は出身が秋田県湯沢市、大学は青森県弘前市にあります弘前大学、そして就職は宮城県と東北

地方を半周し、現在の職場にたどり着きました。なぜ宮城県?と良く聞かれるのですが、最も大きな理由は宮城県の持つ県としての力を期待している事にあります。東北の中心都市仙台市を有し、首都圏にも近い宮城県はその経済的な潜在能力が多方面から注目されています。それは農業、畜産の分野でも同じであり、農家の皆様や関係者の力で、地方から何かを変えることができる県だと思ったからです。そして是非そのお手伝いができればと思っております。弘前大学では大学院農学生命科学研究科において家畜繁殖学、動物発生工学という分野について研究しておりました。主にブタ卵について、成熟・受精・発生という過程を体外で再現し、凍結精液の受精能力や卵の超微細構造の変化を見るため、顕微鏡をのぞく毎日でした。

現在の職場では家畜飼養管理技術に加え、飼料作物やたい肥生産技術など畜産全般について担当しております。普及員として半年が経ち、先日には計1ヶ月にわたる農家派遣研修を終えてきました。しかしながらまだまだ現場における知識や経験が不十分であり、農家の皆様や関係者の方々に教を乞うことばかりです。今はまず知識を深め、できることから取り組んでいきたいと考えています。少しでも農家経営が安定するように、現場の立場に立ち、ニーズに応えた普及活動をしていきたいと思っておりますので、今後ともご指導の程よろしくお願い致します。

第44回仙台牛枝肉共進会入賞結果

全国農業協同組合連合会宮城県本部

農林水産祭参加第44回仙台牛枝肉共進会は、11月7～10日の4日間、仙台中央食肉卸売市場において開催し、関係各位のご協力によりまして盛会裏に終了することができました。チャンピオン賞は下記のとおりであります。

《第1部》黒毛和種去勢の部(30ヶ月未満)
出品者：小川 秀雄(J Aいわでやま)
血統：父 茂糸波
母の父 正 福
規格：A 5 枝肉重量 427.5kg
枝肉単価：5,007円

《第2部》黒毛和種去勢の部(30ヶ月以上)
出品者：千葉 英軍司(J Aみやぎ登米)
血統：父 第6栄
母の父 北国7の8
規格：A 5 枝肉重量 502.5kg
枝肉単価：7,010円

《第3部》黒毛和種雌の部
出品者：千葉 洋(J Aみやぎ登米)
血統：父 第6栄
母の父 北国7の8
規格：A 5 枝肉重量 368.0kg
枝肉単価：5,451円

第1部 黒毛和種(去勢)30ヵ月未満

褒賞区分	農協名	氏 名	血 統		規格	枝肉重量	枝肉単価
			父	母の父			
チャンピオン賞	いわでやま	小川 秀雄	茂糸波	正 福	A 5	427.5	5,007
最優秀賞1	みやぎ登米	伊藤 知幸	茂 勝	秋 重	A 5	403.5	2,551
最優秀賞2	いしのまき	川村 典子	安平照	茂 勝	A 5	465.5	2,651

第2部 黒毛和種(去勢)30ヵ月以上

褒賞区分	農協名	氏 名	血 統		規格	枝肉重量	枝肉単価
			父	母の父			
チャンピオン賞	みやぎ登米	千葉英軍司	第6栄	北国7の8	A 5	502.5	7,010
最優秀賞1	みやぎ登米	日下 正之	茂 勝	安 平	A 5	442.0	3,102
最優秀賞2	みやぎ登米	千葉 盛	茂 勝	北国7の8	A 5	472.5	4,019
最優秀賞3	いしのまき	加藤 節也	紋次郎	茂重波	A 5	414.0	2,768
最優秀賞4	みやぎ登米	千葉正太郎	宮福茂	茂 勝	A 5	479.0	2,755

第3部 黒毛和種(雌)

褒賞区分	農協名	氏 名	血 統		規格	枝肉重量	枝肉単価
			父	母の父			
チャンピオン賞	みやぎ登米	千葉 洋	第6栄	北国7の8	A 5	368.0	5,451
最優秀賞1	みやぎ巨理	小野 一男	茂 勝	第2波茂	A 5	413.0	2,704
最優秀賞2	古 川	鈴木 正一	宮福茂	北国7の8	A 5	358.5	2,660

(畜産課 大友 良彦)

〈畜試便り〉

基幹種雄牛「茂糸桜」号

宮城県畜産試験場

現在、畜産試験場には7頭の基幹種雄牛が繋養され、検定中の候補牛も含めると23頭もの雄牛が繋養されています。今回はその繋養雄牛の中から「茂糸桜」について、茂糸桜自身の育種価と産子の枝肉成績をもとにご紹介します。

●茂糸桜の概要

まず、茂糸桜の概要について簡単に説明します。

茂糸桜は父牛に第7糸桜、母の父に茂重波という血統を持ち、桃生町で造成されました。

そして平成11年に間接検定、フィールド検定(表-1)を経て宮城県基幹種雄牛となりました。産子の検定成績をみると、やや体幅にかけものの、発育、肉質、体長に優れていました。

血統構成から判断しますと、宮城県の種雄牛を父牛に持つ雌牛との交配では急激な近交の上昇にはつながりにくいと考えられます。

●茂糸桜の育種価

まず、茂糸桜の育種価の説明の前に「育種価」について簡単にご説明します。

育種価とは親から子に遺伝する能力を示す指標です。そして、個体の遺伝能力そのものを数値としたもので、血統や外貌等の指標よりも精度が高くなります。しかも、全体の平均からの差を数値で表すので、比較がしやすく、長所、短所が一目でわかります。(ただし、皮下脂肪はマイナスの方が能力が高くなります。)育種価は父牛、母牛から2分の1ずつ子牛に伝えられます。算出方法は産子の枝肉成績と血統情報をもとにして、アニマルモデルという計算方式で飼養技術をはじめとした環境の影響を取り除くと、その親牛や血縁牛の育種価が求められます。

表-2に茂糸桜の育種価を示しています。茂糸桜の育種価を宮城県の主要種雄牛と比較すると、すべての形質で上回っています。つまり、茂糸桜は非常に優れた遺伝能力を持っているといえます。

●茂糸桜の肥育データ

これまでに茂糸桜の持つ遺伝能力が非常に優れていることを示しましたので、ここでは実際に得られた枝肉データを元に説明します。表-3は平成14年、15年に出荷された茂糸桜の産子枝肉データと宮城県の平均値を比較したものです。茂糸桜の産子全体の平均値は宮城県の平均値とほぼ同程度ですが、去勢牛の場合は県平均よりも枝肉重量で約30kg大きく、脂肪交雑をはじめとした他の形質すべての成績が県平均を上回っていました。

このことより、茂糸桜は育種価で示した遺伝能力の高さが最近の枝肉成績にも裏付けされていることが理解いただけたと思います。

●最後に

今後育種価が後継牛の保留、導入、選抜、計画交配等の中心的な指標になると考えております。次世代の種牛生産に向けて、育種価を活用した高能力雌牛集団の整備と種牛性の高い雄牛の選抜をはかってまいります。

表-1 検定成績結果

	一日増体量 (kg/day)	枝肉重量 (kg)	ロース芯 (cm ²)	脂肪交雑 (BMS)	肉質等級 4、5率
直接検定	1.29	—	—	—	—
間接検定	0.81	302	46	3.3	0.91
フィールド検定	—	339	55	1.9	0.71

表-2 茂糸桜と宮城県種雄牛の育種価予測値比較

	枝肉重量	ロース芯	バラ厚	皮下脂肪	推定歩留	脂肪交雑	指標
茂糸桜	15.87	10.42	0.63	-0.84	2.36	2.27	AAAAAA
茂糸勝	-0.95	10.71	0.44	-0.20	1.91	2.27	BAACAA
第2波茂	6.12	9.80	0.41	0.38	1.16	1.86	BAACBA
茂重波	-38.56	4.45	0.23	-0.16	1.37	2.06	CBBCAA

(第13回宮城県和牛育種報告書:宮城畜産協会、全和登宮城県支部)

表-3 宮城県平均との比較

	枝肉重量 (kg)	ロース芯 (cm ²)	バラ厚 (cm)	皮下脂肪厚 (cm)	脂肪交雑 (全和登)	肉質等級 4、5率
去勢	431	55	7.8	1.9	2.12	0.72
産子平均	412	54	7.4	2.1	1.97	0.67
宮城平均	413	54	7.5	2.4	2.10	—

(畜試調べによる)

(酪農肉牛部 佐藤 元道)

NAR 地方競馬全国協会

岩手競馬(盛岡・水沢開催)12・1月 開催予定表

・上段 岩手競馬開催日 ・下段 場外発売開催日

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
12月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
	水沢開催→												←水沢開催→							←水沢開催→											水沢開催
	浦和						宇都宮 荒尾						金沢 荒尾							金沢 金沢 川崎											
1月	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
		水沢開催																													

4月まで休場となります

※開催期間中の重賞レース

- ・12/1(水)彩の国浦和記念 浦和 ・12/5(日)早池峰賞 水沢 ・12/7(火)とちぎマロニエカップ 宇都宮 ・12/19(日)トウケイニセイ記念 水沢
- ・12/22(水)全日本2歳優駿 川崎 ・12/29(水)東京大賞典 大井 ・1/2(日)金杯 水沢 ・1/4(火)桐花賞 水沢

※詳しい開催日程及び場外発売日程情報はテレトラック三本木まで Tel 0229-53-2999

〈衛生便り〉

「24 か月齢以上の死亡牛の牛海綿状脳症 (BSE) の全頭検査 (採材) について」

古川家畜保健衛生所

牛海綿状脳症 (BSE) 特別措置法及び家畜伝染病予防法に基づき、平成15年4月1日から24か月齢以上の死亡牛に対しBSEの全頭検査が義務付けられ、検査がスタートしてから1年と7か月が経過しました。宮城県では検査のための採材を2か所で行っており、古川家畜保健衛生所では、そのうち県北地域を担当、岩出山牧場内による家畜死体冷却保管施設を利用しほぼ毎日採材 (延髄) をしています。採材した検体は仙台家畜保健衛生所で検査 (ELISA法) を実施、全頭の陰性が確認されています。

死亡牛のBSE検査頭数 (頭)

年 度	家畜死体冷却保管施設	仙台家畜保健衛生所解剖施設	仙台家畜保健衛生所	備 考
H 15 年度	1,898	722	53	全頭陰性
H 16 年度 (10.31現在)	1,048	453	6	全頭陰性

全国的には、現在まで14頭のBSEの患畜が確認されており、12頭が食肉センターに出荷された牛の検査で、2頭が24か月齢以上の死亡牛の全頭検査で確認されています。発生14例の内訳は、いずれもホルスタイン種 (♀12頭、♂2頭) で、月齢は21か月齢から103か月齢までと、肉骨粉等の給与が禁止された後に生まれた牛でも確認されています。患畜の発生場所・生産地は、全国に分散しているものの北海道での発生が多く、発生場所別では5例、生産地別では8例が北海道になっています。

平成13年9月に国内で初めてBSEの患畜が確認された当時と違い、BSEの検査体制が整ったこと、消費者にBSEが理解されたこともあり風評被害がでることもほとんどなくなりました。

早期発見による発生・まん延予防、汚染原因・経路の追求そして現在実施している対策の有効性についての科学的検証を行うために始まったBSEの検査ですが、今後とも関係者と連携を密にしながらその業務の一端を担いたいと思います。

(防疫班 谷津 直子)

〈実践大学校生の抱負〉

「先進農業体験学習をとおして」

宮城県実践大学校畜産学部1年 瀬谷真紀子



私は授業の一環として行われる50日間の先進農業体験学習について、蔵王町にある佐豊牧場にお世話になりました。大学校に入学して約半年間、たいした知識も技術も持たずにスタートした研修でしたが、この50

日間で沢山のことを学びました。

初めは牛舎に入っても仕事の要領も牛のことも分からず戸惑う日々が続きましたが、非農家の私にはこんなにも牛に接していただけることは初めてで、毎日嬉しく、牛舎に入るのが楽しみでした。仕事の内容も、早く、綺麗に、正確にを目標に段々と慣れていき、自分の仕事も増えていきました。その分、体を動かすばかりではなく、仕事の効率を考え要領よくこなそうと頑張りました。

研修期間中、日ごろ当たり前に行う作業にもちゃんと理由や注意点があり、作業の様子にも変化があることに気付きました。本を読んで得た知識を持って実践に望むのは難しかったけど、より面白く仕事が出来ました。人にはどんな都合があろうと畑の仕事も環境整備もこれほどの労働時間、お金をかけるのもすべては牛のためと気づかされました。牛と共に生活する楽しさ、牛を扱う難しさなど、酪農という仕事を知り、牛に対する思いも酪農に対する思いもこの研修を経て大きく変わり、より一層牛も酪農も好きになりました。

これからももっともっと知識や技術を習得し、酪農という大業に携わっていきたいです。最後になりましたが、今回の研修で協力して下さった皆様、そして佐豊牧場の皆様、本当に有り難うございました。心から御礼申し上げます。

〈人の動き〉

宮城県

平成16年11月1日付け

新	旧	氏 名
産業経済部技術副参事 (監視伝染病対策担当) 兼 迫家畜保健衛生所長兼 迫地方振興事務所畜産振興部長	産業経済部技術副参事 (監視伝染病対策担当)	高橋 勝一
産業経済部技術副参事兼 迫家畜保健衛生所兼 迫地方振興事務所	迫家畜保健衛生所長兼 迫地方振興事務所畜産振興部長	黒須 敏夫

平成16年10月1日付け

新	旧	氏 名
古川家畜保健衛生所	新規採用	鈴木 歩
食産業・商業振興課	古川家畜保健衛生所主任主査	齋藤 裕